

AiGG

ほっかいどう

189

〔ほっかいどう 愛護〕発行／2021年 2月 発行所／札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4F TEL. (011) 271-0228
発行者／北海道知的障がい福祉協会 会長 遠藤 光博



2021.02
CONTENTS

- 2P. 特集 Web会議をはじめよう
- 3P. Web会議の経験から／わたしのオンライン会議
- 4P. 令和3年度報酬改定の見通しについて
- 5P. 令和2年度における北海道知的障がい福祉協会の動き
- 6P. 今こそスタートアップ!!
- 7P. ご長寿バンザイ
- 8P. 本の紹介
- 8P. 手しごと探検隊!「ベーカリーショップななかまど」



特集

Web会議をはじめよう

コロナ禍の中で大勢の人が集まり密になる研修や会議の在り方が大きく変わりつつあります。今まではオンラインを使っての研修や会議など想像もなかったことが今は当たり前のように求められるようになってきました。

アナログ世代にはちょっと二の足を踏んでしまうようなオンライン会議ですが、今後も増え続けるであろうWeb会議を施設内でも取り組むきっかけになればと特集を組んでみました。

Web会議のすすめ

株式会社シンクシステムズ 小椋 俊秀

新型コロナウイルスの感染拡大は世の中に大きな変化をもたらしました。Zoom(ズーム)に代表されるオンラインミーティングソフトの普及もそのひとつです。いち早くその変化を取り入れたのは大学での授業だったでしょう。それまでの登校し教室で受講するということが、自宅Zoomなどを使って受講するという形に変わりました。また、企業や団体でもリアルな会議に代わってZoomなどによるWeb会議が増えました。人間関係は対面が基本と言う人でもWeb会議に参加するのは、Web会議には対面にはない便利さがあるからです。本稿では、なぜWeb会議をお勧めするのか、どんなところが便利なのかをお話します。

私が考えるWeb会議のメリットは4つあります。以下順番に説明します。

1. 移動の時間と費用がかからない

一番大きな理由は会議に参加するための移動の時間と費用がかからないことです。例えば北海道全域からの参加者がいる会議であれば、どこで開催しても一泊二日で参加する人ができますが、Web会議では職場から移動することなく参加でき、終了後すぐに仕事に戻れますし、Web会議のはしごも可能です。多くの会社から旅費交通費が減ったという話を聞いています。また、海外渡航が難しい時期ではありますが、オンラインで行う短期語学留学を実施する海外の大学などは一気に増えました。

2. 画面を共有することができる

会議の資料などを画面共有しマウスポインタで場所を示すことで参加者皆が同じ注意を向けることが可能になります。これは従来もパワーポイントなどで行われてきたことですが、パソコンにペンタブレットを接続し手書き文字で資料に注意書きを追記していくなどをすると参加者の理解度がぐんと高まります。

3. 個別のフォローができる

私が大学や専門学校の非常勤で授業をしていて感じたのは、個々の学生の理解度や進捗を個別に把握することが可能になったということでした。リアルな教室では1対多の関係ですが、オンラインではチャット機能や個別のメールのやり取りなどによって1対1の関係を築くことができました。これはWeb会議でも活かせることでした。

4. 記録を残せる

Zoomでは少なくとも主催者は会議の様子を動画で保存することができ、議事録の作成には大変便利です。そう遠くない将来、発言内容の文字起こしまでやってくる機能が追加されるのではないかと期待しています。また、Web会議ソフトで個別の録画ができない場合でも、Windowsパソコンであれば「ゲームバー」という機能を使って動画録画することが可能です。さらにいえば、パソコン画面をスマートフォンで録画することもできます。そして、保存した動画を非公開の設定でYouTube(ユーチューブ)に載せ、参加できなかった人も含めて後で見直すことも可能です。

以上、Web会議のメリットを挙げてきましたが、注意も必要です。特に4番目の記録に残せるということは諸刃の剣で、第三者への情報流失の恐れもあります。情報流失を防ぐために参加者から誓約書をとるなどの方法もありますが、インターネットの向こう側では相手は何をしているかわからないということを忘れずに発言などには注意を払う必要があります。

昨年からのZoomに代表されるオンラインソフトの普及はコンピュータを中心とした情報通信技術の大きな変革であり、世の中を大きく変えていく新たなスタートラインであるといえましょう。是非、積極的に取り組んで有効利用していただければと思います。

最後にオンラインミーティングソフトの使い方ですが、YouTubeで「Zoom初心者講座」で検索し、「突然Zoomでオンライン会議や授業をされると言われても慌てないために予習しておきたい方へお送りする動画」というタイトルの動画視聴をまずはお勧めします。

Web会議の経験から

一年前までは想像もしなかった変化が私たちの現場に起きています。職場のあちこちに消毒用アルコールが置かれ、職員は常にマスクを装着、日々の検温を怠らず、体調の変化に神経を尖らせています。そして、ほとんどの会議が対面からWeb(リモート)に切り替わりました。コロナ禍が私たちに強い変化です。

私の法人ではさまざまなレベルの会議があります。それらのほとんどが現在は、Zoomを利用したWeb会議になりました。事業所内の会議や朝夕の支援の申し送りも、Web形式がとられています。法人内の研修もWebです。

この10ヶ月間、多くのWeb会議を経験してきて、コツめいたものを多少は体得できました。

①Web会議で肝心なのは音声です。映像は粗くてもストレスをさほど感じません。しかし音声が聞き取りづらいとただただ疲れます。値段は張りますが、質のいい音声機材を揃えることをお勧めします。もちろん安定したネット環境、Wi-Fi環境は必須です。

②司会者の力量で会議の充実度が左右されます。対面会議では「場の雰囲気」を感じ取りながら、次はこの人が意見を述べようだなとか、この人はあまり納得できていないのかなとか、そうしたことが感覚的に伝わってくるものです。Web会議にはその点で隔靴搔痒感がつきまといまいます。司会者が積極的に参加者に発言を促さないと、会議がテンポ良く進んでいきません。臆せず発言者を指名したほうがいいと思います。

③Zoomなどでは、使い方に習熟するとグループワークなどでもできるそうです。職場の全員が使いこなすのは無理ですが、詳しい職員が数人いるとみんなが助かります。そうした人材育成も、今後は必要なのだらうと思います。

3密を避け、飛沫を避けるために、テーブルにアクリル板を設置したり、Web会議を多用したりすることは致し方ないことだと納得はしています。コロナ禍で強いられるようになったWeb会議ですが、感染が終息したあともWebで済ませて問題ないと思える会議もあります。しかし、ここぞというとき、あるいは数回に一回は、対面式の会議を復活させていきたいものだと思うのは私だけではないでしょう。

情報技術は私たちの暮らし、仕事を便利にしてくれましたが、同時に便利さには落とし穴もあるものです。そのことに十分意識的でありたいと思います。そしてWeb会議という1年前には想像もしなかった変化が、1年後には私たちが自由に選べる選択肢のひとつになっていることを願っています。



研修会



オンライン就職説明会

わたしのオンライン会議

わたしの職場では、少しずつオンライン会議が定着しつつあります。Zoom、リモート会議などどれ一つ聞いたことがなかった言葉ですが、この数か月間で職場内にも浸透し、集合型の会議のほか、研修会なども少しずつオンラインへとシフトしてきています。

初めは、環境としても整っていませんでしたので、まずWebカメラの準備から始めました。ノートPCであればカメラ内蔵のものが多かったのですが、それ以外はネットで安く購入することが得意な事務員さんにお願ひし、揃えてもらいました。また、ヘッドセットは同じ空間で会議をしている人がいる場合にハウリングを起こすことがわかり、それも併せて購入しました。マイク付きイヤホンであれば、100円ショップで買えることもわかりました。

さて、実際の会議です。いつもの顔ぶれなのに、参加者がどこかよそよそしい感じがします。Web上での空気感は普段と違い会話が一方通行となりがちだからでしょうか、話していても、そのことに賛同が得られているのか、または意見があるのか、不安になることがあります。相手の表情観察、うなずき、相づちなどは普段の利用者さん支援の場面以外に、これからはWebカメラに向けても必要なことなのでしょう。新しいビジネス様式で、今後この形がさらに進んでいく中、そのあたりの改善を私は少し望みたいところです。

オンライン会議を重ねながら良かったこと思うこともあります。ほとんどの会議で時間短縮につながっています。また、会議会場まで出向かなくてもよいので、移動にかかる時間とコストも少なく済むようになりました。その他にも新しい取り組みから知ることや、発見などが業務改善につながることも多いと思っています。

「明日の会議、10分前に招待しますから・・・」 たった今、内線電話に連絡がありました。



オンライン会議

札幌報恩学園 支援課長 竹村 義文

令和3年度報酬改定の見通しについて

北海道知的障がい福祉協会・日本知的障害者福祉協会 政策委員

さっぽろ地域生活支援センター 所長 小松 大記

日本知的障害者福祉協会の令和2年度政策委員会は、これまで3回オンラインで開催されました。協会としては、厚生労働省の令和3年度障害保健福祉部予算額が、新型コロナウイルス感染症対策などの関係もあり、厳しいものになることが予測されることから、多岐に亘る事業・項目に関して、優先順位を絞りながら要望をあげていくこととなりました。

その中で、既に日本知的障害者福祉協会のホームページに掲載されている「令和3年度障害福祉サービス等報酬等改定に向けた要望」について確認されました。

また、12月8日の政策委員会では、厚生労働省の担当者との意見交換が行われました。厚生労働省からは、

- ・ 障害者支援施設が実施する生活介護の重度障害者支援加算について、入所利用者については現状と変わらず、施設入所支援の時間帯（夜間）のみと考えている。
- ・ 生活介護の重度障害者支援加算に「重症心身障害者を支援している場合」に算定可能となる区分を創設する件については、個別の加算ではなく、支援体制を整えている事業所への加算を想定している。
- ・ 就労継続支援B型の報酬体系の見直しについては、現行の工賃による評価は残したうえで、利用定員と人員配置に応じた報酬体系を導入することを検討している。
- ・ 相談支援の基本報酬に関しては、特定事業所加算を基本報酬に溶け込ませ、加算ではなく「機能強化型サービス利用支援費Ⅰ～Ⅳ」を新たな報酬区分として設定することを考えている。
- ・ グループホームに関しては、重度障害者の報酬に配慮しつつ、報酬への見直しを検討。夜間支援体制加算についても、障害支援区分ごとの報酬のなかでメリハリをつけるつもりである。日中サービス支援型GHなど、本来は重度者が対象の想定だったが実態はそうではないといった情報もあり、軽度者は報酬が下がる可能性が高い。
- ・ 食事提供体制加算は、減額せず現状のまま3年間延長する予定である。
- ・ 送迎加算については、単位数の増減ではなく現状維持と考えている。

等の内容が伝えられました。

現在、厚生労働省のホームページで、12月11日開催の社会保障審議会障害者部会資料、障害福祉サービス等報酬改定検討チームの議論内容が掲載されています。その中では6項目の主要事項に沿って、報酬改定の基本的な方向性が出されることになっています。第1に共同生活援助や、生活介護等における重度障害者への支援の評価の見直しや、相談支援については収支差率が低いことも課題となっており、報酬体系を見直すとされています。

第2は就労系について、基本報酬の算定に係る実績や支給要件の見直しや、一般就労への移行や工賃向上等の更なる促進に向けた施設外就労加算の発展的な見直しなど項目も多くあげられています。施設入所支援においては、口腔衛生管理、摂食・嚥下機能の支援に係る評価。訪問系については、同行援護、行動援護における従業者要件等の経過措置の延長や重度障害者等包括支援の対象者要件の見直しなどが出されています。

第3の障害児支援の関連では、医療的ケア児に係る判断基準の導入、児童発達支援・放課後等デイサービスの報酬体系等の見直し。福祉型障害児入所施設における人員基準等の見直しやサテライト型の評価。18歳以上の入所者の地域移行の推進に係る報酬等の見直し等多くの改定事項が出されています。

第4は精神障害者に対応した地域包括支援システムの推進について。

第5は新型コロナウイルスの影響を踏まえ、感染症対策災害時の業務継続に向けた計画の策定等の義務づけ等。

第6は制度の持続可能性を確保するための取り組みとして、虐待防止と身体拘束の適正化に向けた取り組みの義務づけや、処遇改善等の見直しが出されています。

全体の報酬改定については、12月17日に改定率+0.56%と発表されました。具体的な改定内容については、令和3年2月に決定されることになっています。

令和2年度における北海道知的障がい福祉協会の動き

一般社団法人北海道知的障がい福祉協会 常務理事・事務局長 笹原啓一郎

新型コロナウイルス感染防止のため、令和2年度は、実施予定事業のほとんどを中止か延期せざるを得ませんでした。

4月からの協会の動きを見ていくことにより、コロナに翻弄されたこの1年を振り返ることとします。

令和2年は、1月28日に道内初の感染者が確認されて以降、知事が2月28日独自に緊急事態宣言を出し、3月19日宣言は解除されたものの、その後も道内各地で感染者が連日報道されていました。

4月に着任した私が事務局としてまず行ったことは、5月に東京で開催予定であった橘顧問の叙勲拝謁・伝達式中止についての内閣府からの連絡をご本人に伝えることでした。以降、協会関係の大会や研修等様々な催しが全国で続々と中止や延期となっていきます。

国では、4月7日、7都府県を対象に出した緊急事態宣言を、16日には全国に拡大し、北海道は、重点的に感染拡大防止が必要な「特定警戒都道府県」と位置付けられました。道内で、この緊急事態宣言は5月25日まで続きます。

4月17日、監事監査が行われたこの日から、協会事務局が入居する「かでの2・7ビル」の一般の方の出入が禁止となり、結局、5月末まで続けました。

4月の理事会もコロナで書面開催となり、私としては理事の皆様顔に顔を覚えていただく良い機会でしたので大変残念でした。5月の理事会も書面開催となりました。

こうした中、4月28日、道東の障がい者支援施設で新型コロナウイルスの感染者が出て、その後感染が広がりクラスターとなってしまう。協会では、道東地方会を中心に衛生用品を届けるなど支援を行いました。

コロナが終息する見通しが立たないことから、会長、副会長で協議した結果、令和2年度の協会事業を12月末まで中止とすることを、5月13日、全会員に通知しました。

当初、5月25日開催予定であった定時総会ですが、6月18日に延期した上、会員から委任された役員による会議をWebで開催することとなりました。今期は役員改選期にあたり、6月中の開催が不可欠でしたし、初のWeb開催とはいえ失敗は許されません。出席される役員の皆様のWeb環境調査、業者立会のもと、日程を変え試行テストを何度も行うなど、準備を重ね、何とか総会・理事会での決算及び役員改選承認に至りました。総会・理事会終了後は、法人登記の手続きのため、議事録署名人の所への往復、札幌法務局との度重なるやりとりなどを経て、7月15日ようやく登記完了に至り、ほっとした記憶があります。

8月に入り、令和2年度北海道善行賞（北海道知事賞）に社会福祉法人函館一条の尾形理事長受賞決定の知らせが届いたことは大きな喜びとなりました。ただ、令和2年は、橘顧問の名誉ある春の叙勲・旭日小綬章をはじめ、栄えある各賞受賞の吉報が届きましたが、コロナ禍で、会員の皆様へ披露する場を設けることができなかつたことは本当に残念でした。

また、本年度の会長表彰受賞者は、例年であれば、定時総会の席で授賞式を行い会員の皆様に披露していましたが、今回はやむなく、推薦した地方会長等が施設等に向き本人に授与しました。

8月26日に開催した理事会は、新たな役員体制になって初の会議として、顔合わせの意味合いから、しっかり感染防止対策を取った上、対面（一部Web）で実施し、ようやく道内各地の役員の皆様にほぼお会いしご挨拶することができました。

一方、本年度は、これまで協会に貢献していただいた方の訃報が相次ぎました。8月に、協会元理事の大澤邦昭氏、国府田稔氏が、9月には森本千尋氏が亡くなられました。

9月25日、道南の障がい者支援施設において、複数の職員が入所者への暴力行為で逮捕されるというショッキングな報道があり、その後2名の職員が起訴され有罪判決が下されました。

協会では、道南地方会を通じて当該施設に対し状況を確認するとともに、コンプライアンスを守り適切な支援を行うようすべての会員施設に対し、会長より10月9日付けでメッセージを发出了しました。

11月に入り、全道の感染者数が急激に増加する中、11月10日、道央の障がい者支援施設で新型コロナウイルスの感染者が発生し、後にクラスターとなったのを機に、12月にかけて、道北など他の地域の障がい者支援施設でも感染者が次々と出ました。

協会では、各地方会を通じ、感染の状況及び支援の要否を適宜確認し、要請に応じ、会員施設に物資の支援や応援職員の派遣を呼びかけ、実際に数多くの支援が行われました。

また、クラスター等発生時の初動時の備えとして、11月27日の地方会長会議で決議した、防護服、N95マスクなどの緊急配布用衛生用品の購入・配布について、12月16日の理事会で承認を得て、事務局で本格的な購入等準備を開始しました。

全国でクラスターが多発し、マスク等衛生用品が品薄となる中、本年中に納品されるよう複数の衛生用品取扱業者と交渉・調整を続けた結果、何とか万遍なく購入にこぎつけ、12月25日、道内8地方会に一括送付したところであり、現在、各地方会指定保管場所に備蓄されています。

以上、令和2年4月から12月までの協会の動きを振り返ってみましたが、この9ヵ月間、道内は大きな災害こそなかったものの、目に見えない感染症の得体の知れない怖さを思い知らされました。この間、感染者が出た施設職員の方々、他の施設の支援に従事された方々、この他、利用者の感染防止に細心の対応を続けてこられた、皆様の懸命のご尽力、ご奮闘に改めて感謝を申し上げ、令和3年の協会の発展及び会員施設・事業所の利用者・職員の皆様が健やかに過ごされますことを心から祈念し、ご報告とさせていただきます。



緊急配布用衛生用品（8地方会分）



今こそ スタートアップ!!

コロナ禍による閉塞感が漂う中、それぞれの事業所での取り組みを今回もご紹介します。こんなときだからこそ、笑顔が積み重なるような小さな楽しみを探してみませんか？

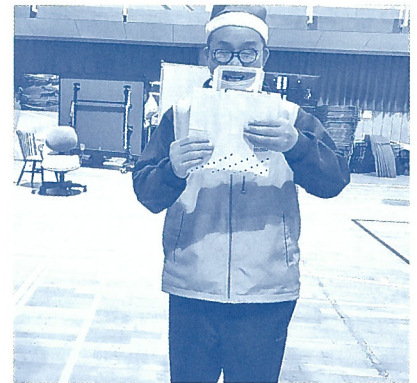
みんなでクリスマスのお祝いをしました！

晩生内ワークセンター

今年はコロナ禍で施設や町内外のイベントがほぼ中止となり利用者さんの楽しみが減ったので、少しでも楽しんでもらおうとクリスマス会を行いました。

美味しい食事やカラオケ、抽選会などを行い久しぶりに楽しそうな利用者さんの笑顔を見る事が出来て、その笑顔に職員も癒されました。

楽しかった今回の思いを明日の糧にしてコロナに負けないようみんなで頑張ってください。



利用者自身の「自衛」にむけて

ワークセンター一条

コロナ禍で活動を制限せざるを得ない中、ワークセンター一条は、様々な工夫をした活動を行っています。自立訓練（生活訓練）では、利用者さん自身が「自衛」することにも目を向け、感染予防に関する利用者学習会やマスクの洗浄訓練、脳を活性化させながら体を動かすライフキネティックを行い、適度な運動で免疫力を高めることにも取り組んでいます。

大変な時期ではありますが、まだまだやれることはあるはず。みんなで踏ん張ろう！



マスク洗浄



学習会



ライフキネティック

ご長寿バンザイ

全道各地のご長寿さんのほっこりな毎日をお届けします！
うちの「ご長寿さん」を紹介したい！という方、ご応募お待ちしております。



平均年齢63歳 のんびりタイム

岩見沢清丘園

障害者支援施設岩見沢清丘園は、男性53名、女性13名の19歳から92歳までの66名の方が生活され、高齢層の割合が高く、平均年齢は63歳となっています。

当施設の日中活動ではアート展出演を目標に創作活動に励まれる方、パズルや紙ちぎりに精を出される方、ラジオを楽しまれたり、高齢の方は毎日お昼寝をされる方もいます。画一的な支援提供だけではなく、「高齢の方はどのような生活を望まれているのか」を考え、「ご本人らしさ」を支えることも職員の大変な役割ではないかと感じます。

医療機関との連携やバイタルチェック等、健康管理には十分注意を払わなければなりません。時に緊急的なことも起きますが、利用者とお越し「のんびり、ゆったり」流れる時間、年を重ねシワの刻まれた笑顔は職員の心を癒やしてくれます。

築48年の当施設ではハード上、車椅子の方や高齢者のQOL維持に限界があり、昨年7月に高齢女性利用者を対象に「指定共同生活援助事業所（日中サービス支援型）・指定短期入所事業所（併設型）『コリーナ』」を開設しました（平均年齢77歳）。10名の2ユニットで、バリアフリーの平屋建てです。慣れ親しんだ職員とのんびりした時間を過ごしています。

今夏には高齢男性利用者を対象とした同様の共同生活援助事業所の開設を予定しています。



コロナにも負けないパワフル90歳

銀山学園

ご紹介するのは、昭和5年生まれ、笑顔が素敵でおしゃれ好きな90歳、銀山学園最高齢の岩田正士さん(男性)です。

旧銀山学園・大江学園で過ごされ、平成27年(84歳)に銀山学園に戻り現在に至ります。

岩田さんは、職員が出勤すると「おーい」と手招きで呼び笑顔で挨拶を交わし、ここからご本人と職員の日が始まります。

動物が大好きで、銀山学園が現在の場所に移転する前には鶏の飼育をしていて、その当時から生き物に興味があったのでしょうか。動物の中でも特に馬が大好きで、日曜日の競馬中継では、走る馬を純粋な気持ちで応援しています。

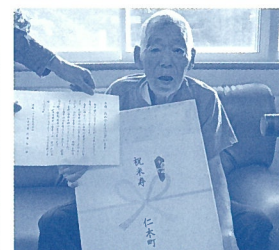
また、おしゃれ好きで、時計や眼鏡(伊達)にこだわりがあり、身だしなみはいつも完璧です。

強風が吹きあれる天気の時には、移転する前の銀山学園の屋根が突風で飛ばされたことを思い出し、当時の職員の様子を含め、面白おかしく語ってくれます。

今は高齢となり車椅子での生活になっていますが、パワフルでおしゃれ好きは健在。

「おーい」・・・聞こえてきませんか？

職員を呼ぶ元気な声と手招きする姿、今日もまた一日がここからスタートするのです。





本の紹介

Keep your smile

半身麻痺になってしまった

女の子が綴る、

ハッピーでいるための15のコツ

著者 momoちゃん

ISBN-13 : 978-4286194059

ISBN-10 : 4286194051

出版社 : 文芸社



6年ほど前、私は脳出血で倒れている。AiGOのバックナンバーを読み返すと、174号だけ「本の紹介」が抜けていた。(AiGOファンの皆さんならお気づきでしょう?) その頃に長期入院をし、リハビリの日々。右脳の出血で左側に障害が残ると言われ、左利きの私は少し焦った。ただ入院直後、腕を動かせる感覚が残っており、動かせるという根拠のない自信があり、幸いにも感覚麻痺があるが、車の運転も仕事も何とか出来ている。

そこから4年経ったある日、この本に出会う。作者は、私と同じようなタイミングで脳出血をし、生還している「#脳出血サバイバー」である。きっと作者の彼女は、この病気で

出来なくなったこともあるだろう。でも彼女は自身を包み隠さず、書中やSNSや動画サイトなどで積極的に発信している。文中には、発症したときの状況、その後の手術、リハビリの事がつづさに書かれている。女性だから、手術の際に剃髪したことを隠しておきたい心理もあるだろうが、そこについても写真付きで収められている。私自身もそうだったが、長期入院で時間があり、入院生活を記録しておこうと思ったことが類推できる。SNSでは、その後の話として、おしゃれを楽しんだり、マラソンに参加する姿も紹介されている。同じ「#脳出血サバイバー」として共感も尊敬もする。

私自身、死の覚悟も、障害が残る覚悟もした。自分だけでなく、家族にも辛い思いをさせたから、あまり公にしなかった。この本を読んで、入院からの1~2ヵ月、左半身が自由に動かせず介助が必要な状態だった事を思い出す。障がいのある方の大変さを少しだけ理解できた経験を、この職に就いているのだから、公表しようという思いになった。5年目の2020年3月6日にSNSで公表し、自らも発信者になってみた。

ちなみに、その時の年齢は41歳、数え年の42歳。世に言う「本厄」。信仰心は、まるでないが厄払いに行ったおかげなのか、大事に至らず、ほぼ普通の生活を送っている。

(K)



手しごと探検隊!

ベーカリーショップななかまど

「あん餅」

当事業所の就労継続支援B型事業が運営する『ななかまど』は、今年度28周年を迎え、パンやお菓子製品の他、毎週金・土曜日限定であん餅の販売をしています。あん餅は道産もち米と十勝産「きたろまん」小豆を使用した自家製の餡子を作り、保存料、着色料などを一切使用しない身体に優しい「昔ながらのあん餅」を販売しています。

白老近郊で採れた天然よもぎを使用した『よもぎあん餅』と北海道の黒豆を使用した『豆あん餅』は、地元また町外から買い求めに来るお客さんが多く、当店自慢の人気商品です。白老町への誘客率の向上を目的に平成25年より毎月2回札幌のデパートなどで販売を実施してきましたが、コロナ禍により今年度より活動が中止となり、昨年からは楽天市場の通信販売を開始しました。白老町から日本全国のお客様に自慢のあん餅が届けられるようになり、今では関東や関西方面からのご注文を頂くようになりました。今後もコロナに負けず利用者工賃、売上向上を目指し、利用者さんの工賃財源確保に努めていきます。

製造元:社会福祉法人 白老宏友会 多機能型事業所ポプリ
販売先:ベーカリーショップななかまど
価格:よもぎあん餅、豆あん餅 各120円(税込)
連絡先:TEL 0144-82-6677



よもぎあん餅



豆あん餅



編集会議

新型コロナウイルス感染症の名前が聞かれるようになってからもうすぐ1年が経とうとしている。クルーズ船、ダイヤモンドプリンセス号のニュースを聞いたときはまるで他人事のように感じていた。2月に入り雪まつりの終わったころから、北海道にも緊急事態宣言が出され、それでも5月のゴールデンウィークには落ち着くのではないかと楽観視していた。ところが思いの外、コロナウイルスは手ごわく、そしてしたたかに世界中を呑み込んでしまった。一向に収まる気配がない中、それぞれの施設では面会や帰省の自粛や中止、また人込みを避けるために飲食を伴う外出を控えるなど人と接触する機会や密にならないような生活を今も続けていることだろう。会いたいときに会え、おしゃべりしたり旅行に行ったりする、当たり前だと思っていた日常がどれほどかけがえのない大切な時間だったのか今更ながら思い知らされる。年に数回の編集会議も今年はリモートで行い、研修会も中止かリモートでの開催となったところも多い。長年続いてきた「みんなあーと」も今年度は中止となり、残念に思っている利用者の方たちもたくさんいたのではないだろうか。

それでも規制の多い生活の中、できないことを嘆くばかりではなく、できることを探して楽しもうとそれぞれの施設がいろいろ対策を取りながらミニお祭りやバーベキューなど趣向を凝らした行事を企画していた。与えられた環境の中でも前向きに頑張っている姿を今回も「今こそスタートアップ」で紹介している。

今年は昨年できなかった分も取り戻せるくらい明るく希望に満ちた一年になることを願っている。

(広報編集委員長 富田栄子)